



北区の部屋だより

2023年 1月 第161号



刊行物登録番号 3-2-170

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL 03-5993-1125 令和5年1月発行

北区 こぼれ話 第161回

借金の清算は大晦日に ～明治時代の日記から～



明治時代、北区域の人々は、どのように大晦日を過ごしていたのでしょうか。中十条の高木助一郎さんが残した日記を見てみましょう。明治44年(1911)12月31日の記述です。

〔前略〕裏の家に至り酒の勘定をなし来る六円八拾銭。〔中略〕今日、駒崎義三君、巢鴨田崎氏の利子二百十六円を持ち来らる、内より直江様に三円の御礼を義三君に託す。夜、郷戸より郁夫氏百二十円の利子を持ち来る。依りて内二十円は壱千円の壱割壱分の約なりしを去年壱割貳分の百二十円を受れたれば去年の分拾円、今年の分十円、合せて二十円返す。〔後略〕

とにかく、お金が飛び交っています。事情が分からない我々読者には、細かい理解はできませんが、大晦日に様々な借金や利子の返済がおこなわれていたことだけは分かります。

もちろん、高木家では、今の「大晦日らしいこと」もしています。例えば、すす払いもおこなっています。「ランプ掃除」や「家廻りを片付け」といった大掃除の記述があります。日が暮れた後は、夜店見物にも行っています。それらと共に、借金の清算についての記述が出てくるのです。

そう言えば、子どもの頃に見たテレビのドラマやマンガで、大晦日に借金が返せず、夜逃げをするというシーンがありました。少し前、某公共放送でも、昔は年末に借金の清算をしていたという話を取り上

げられていました。5歳児が「ボーっと生きてんじゃねーよ」と叫ぶ人気教養番組です。年末をなぜ「年の瀬」というかという問題でした。答えは、借金返済の時期であり、無事に乗り越えるのが難しいからというものでした。つまり、川の難所である「瀬」を用いて、年末が難所であることを表したというのがその理由でした。番組の中で、昔の人は「ツケ」で買い物をすることが多く、その年の「ツケ」は、大晦日までに支払うべきものだったという説明がなされていました。

この風習は、おそらく昭和戦後期まで残っていたものと思われます。例えば、酒店などの御用聞きが、家の勝手口から出入りして注文を取り、通い帳に勘定を書きつけるという商売の方法です。その場では金銭のやり取りをせず、後で清算するという習慣は、ある国民的アニメの中で、三河屋さんが登場するシーンなどで描かれていました。

現在では、ツケで買い物をすることは無くなりました。飲み屋さんで「つけといて」と言う客を実際には見たこともありません。年の瀬に借金を清算するという意識は、薄らいでいるものと思われます。

【地域資料専門員 黒川徳男】



北区の部屋・今月の展示

▶『写真で振り返る北区の鉄道 140 年』 1 月 25 日（水）まで
北区域の鉄道開通と王子駅開業 140 周年を記念した、北区における鉄道の歴史展示です。ぜひご覧ください。

※図書館システム入れ替えにともない、12 月 14 日～1 月 4 日まで臨時休館となっていたため、12 月の展示をひきつづき公開します。



北区の部屋・地域コレクション：「写真・地図・文書」

「北区の部屋」では、北区に関する資料であれば図書はもちろんのこと、様々な資料を何でも集めています。今回はその中から以下の 3 点をご紹介します！



★古写真（約 30,000 点）★

区内各所を写した古い写真や絵はがきがあって、懐かしい北区の姿を見ることができます。また、テレビや雑誌など多くのメディアに資料協力もしています。

★古地図（約 500 点）★

明治時代から現代までの北区の地図が揃えてあります。古い住宅地図（昭和 37 年版以降、欠年あり）もあって、よく昔の住まいや学校などを調べに来る方がいます。



★古文書（約 40,000 点）★

区内の旧家で発見された古文書などがあり、一部は複写本として「北区の部屋」に配架されています。現物を使って、古文書講座を毎年開催しています。



※いずれも現物をご覧になりたい場合は、地域資料専門員にお声がけください。



「北区の部屋」ってどんな部屋！？



常連さんは大勢いますが、図書館利用者にはまだまだ知名度がイマイチな「北区の部屋」。そもそも存在そのものを知らない方もいるかもしれません。「北区の部屋」とは中央図書館にある、“北区”に関する資料がずらりと並び“北区のことなら何でもわかる”部屋となっています。

また、「北区の部屋」には「地域資料専門員」がいて、調べ学習の素朴な疑問から郷土史の専門的な質問まで、利用者の北区に関する「何故？」にわかりやすく対応しています。例えば……

▶Q. “男装の麗人”と呼ばれ、満州で暗躍した川島芳子さんが北区にいたというのは本当ですか。

→ A. 子どものころ、「赤羽字稻付八一七」に住んでいたと『評伝 川島芳子』（寺尾紗穂著、文藝春秋、2008 年）という本に書いてあります。正確には「東京府北豊島郡岩淵町大字稻付八一七番地」で、現在の赤羽西二丁目にある香取神社のすぐ近くです。

▶Q. 北区役所の近くを流れる音無川はなぜ音無川と呼ばれているのですか。

→ A. 音無川は、石神井川の別名として知られていますが、王子権現の麓を流れることから、紀伊国熊野の音無川になぞらえたという説（新編武蔵風土記稿）や、水流が穏やかで音がしなかったから「音無」の名を付けたという説（絵本江戸土産）などがあります。



……等、どんな質問にもお答えします。ぜひ、お気軽にお尋ねください。

北区の部屋だより

2023年2月 第162号



刊行物登録番号 3-2-170

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 Tel03-5993-1125 令和5年2月発行

北 区
こぼれ話
第162回

食材の旬

はつもの
～初物の話～



その年に初めて食べるものを指して初物といいますが、その季節になって初めてできた野菜や果物、盛りの季節に先駆けて獲れた走りの魚など、初物は様々な意味でも使われます。初物を食べると七十五日寿命が延びるといわれ、江戸時代には初鯉が熱狂的に珍重されたことをご存知の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

こうした初物は、季節を先取りしているため、そもそもが品薄の状態にあり、そこに庶民の購買熱が加わることで価格が急激に上昇しました。そのためこれを好ましく思わない幕府が一部の品物に対し売り出しの期日や期間を指定し、物価の安定を図るとともに庶民の贅沢嗜好を禁止しています。

例えば、寛文^{かんぶん}5年（1665）正月29日付で定められた禁令では「厨膳^{しゅたん}に調理する魚鳥^{ぎょちょう}蔬菜^{さいさい}の候を定めらる（厨房で調理する魚や鳥、野菜類の季節を定められる）」として、鱒^{ます}・生椎茸^{なまひたけ}は正月から4月まで、土筆^{つくし}・防风^{ぼうふう}（※1）は2月より、相黒蕨^{あいくろわらび}・蓼^{たで}・生姜^{しょうが}は3月より、鮎^{あゆ}・鯉^{かつお}・根芋^{ねいも}・筍^{たけのこ}・茄子^{なす}・枇杷^{びわ}は4月より、などと、30種類以上の品物の時期を定めています（「厳有院殿御美紀^{げんゆういんどのごじつき}」寛文5年正月

29日条（※2））。こうした禁令が江戸時代を通じて出されていることから、江戸庶民たちの初物嗜好がいかに強かったか、それと同時に禁令がいかに守られていなかったかがわかります。

一方で、現在、こうした資料を読むと改めて食材の旬ということを考えさせられます。見栄^{みえ}っ張りの初物嗜好は置いておくとして、旬の食材を旬の時期に味わうということは栄養価の面でも非常に重要かと思えます。

先の七十五日についても旬のものを食べていれば健康でいれると解釈すれば、あながち根拠の無い迷信とはいえないでしょう。今では様々な食材が季節に限らず店先に並び、旬ということを忘れがちになってしまっていますが、今年は少し旬を意識した食生活にしてみようかと思う今日この頃です。

【地域資料専門員 保垣孝幸】

（※1）セリ科の植物

（※2）『新訂増補国史大系徳川実紀第四篇』（吉川弘文館、1931年＜5刷＞1991年＞）



北区の部屋 今月の展示

やしんでん 野新田の渡し

- 展示期間：1月27日(金)～2月23日(木)
- 展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

荒川(現・隅田川)沿いに位置する北区にはかつて多くの渡船場がありました。今回の展示では、北区豊島と足立区新田を結んでいた野新田の渡しを中心に、北区の渡船場について紹介します。



野新田の渡しの上流にあった宮堀の渡し

公開歴史講座

「江戸城上納物と北郊の村々」

江戸近郊の村々では、農村で採取できる様々な物資を江戸城に上納していました。北区域を含む江戸近郊の村々の実態について、専門家がわかりやすく解説します。

【日 時】3月11日(土)午後2時～4時

【場 所】中央図書館3階ホール

【講 師】保垣孝幸 地域資料専門員(日本近世史研究家)

【対 象】北区在住・在勤・在学の中学生以上の方

【定 員】20名(抽選)

【申込方法】往復はがきの往信用裏面に講座名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を、返信用表面には申込む方の住所、氏名を記入して下記まで。2月21日(火)(必着)。

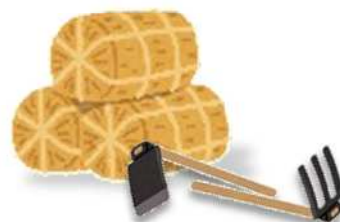
※視覚障害のある方は電話申込可。 ※聴覚障害のある方はファクス申込可。

※障害のある方で付き添いが必要としている方は、付添人1名まで可。(申込みの際その旨記入)

※会場にはヒアリングループ補聴援助システムが設置されています。

【申込先・問い合わせ先】中央図書館図書係 地域資料担当

〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL(5993)1125 / FAX(5993)1044



開催しました！

2022年度 親子で探検！ 中央図書館ナイトツアー 赤レンガ図書館の見どころ



1月8日(日)、中央図書館で「親子で探検！中央図書館ナイトツアー」(企画・運営：図書館活動区民の会)が開催されました。

誰もいなくなった夜の図書館を大冒険、図書館の秘密を解き明かしていく、親子参加型の大人気ワークショップで、今回は10組、20名の親子が参加されました。親子で協力しながら、懐中電灯とガイドブックを手に、暗い図書館内を探検。ツアーで訪れる各ポイントで、赤レンガに刻まれたマークは？レンガの積み方の秘密は？などの謎をひとつずつ解き明かしていききました。

そして、すべての解答がそろった時、赤レンガ棟の広さ・鉄骨のラチス柱・スレート屋根のつくりは、また、この図書館が、もともと〇〇だったため(※答え下段)ということを知ることができました。

また、謎解き以外にも、普段利用者が入ることのできない閉架書庫で電動書架を動かし、4メートルの高さの書架から本を取り出してみたり。初めて見る場所に夢中になって体験をしながら、あっという間の1時間30分でした。

ツアー中は、親御さんも子どもたちと一緒に謎解きや刻印探しを楽しんでいる姿が見られました。アンケートでも、「図書館の秘密がわかって良かった」、「普段入れないところを見ることが出来て楽しかった」等の感想をいただくことができました。



※〇〇の答え：鉄砲の弾を作る工場



北区の部屋だより

2023年3月 第163号



刊行物登録番号 3-2-170

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 Tel.03-5993-1125 令和5年3月発行

北区 こぼれ話 第163回

尾久駅から140円のキップで行ける駅はどこ？

—赤羽駅まで160円、上野駅まで160円—

令和5年(2023)3月18日発売分から、山手線や埼京線などの運賃が値上げされます。駅のバリアフリー化を進めるためと発表されています。

運賃と言えば、北区には、電車の運賃をめぐる不思議なことがいくつかあります。その一つが、昭和町にある尾久駅のキップです。尾久駅の自動券売機では、140円の乗車券を売っています。南隣の上野駅まで乗ると160円です。北隣の赤羽駅まで行っても160円です。では、140円で、どこに行けるのでしょうか？

答えは、日暮里駅です。尾久駅から日暮里駅までの運賃が140円なのです。実際に乗車してみると、謎の現象が起こります。尾久駅は、宇都宮線・高崎線の駅ですから、最短距離で日暮里駅へ行くには、まず上野駅へ行かなくてはなりません。そして、京浜東北線か山手線に乗り換え、日暮里駅へ向かいます。上野駅で降りると、前述のように160円が必要です。さらに乗り換えて日暮里駅まで行くと安くなって140円なのです。乗車時間も、移動距離も、上野駅に行くよりも長いのに、不思議なことです。一体どのような計算方法なのでしょう？

実は、日暮里駅は、尾久駅の隣駅という扱いなのです。実際、宇都宮線(かつては東北線)や高崎線の一部の列車が、尾久駅と日暮里駅の両方に停車していた時代がありました。例えば、日本交通公社の昭和22年(1947)

11月15日発行『時刻表』を開いてみましょう。5時15分宇都宮発の上り電車は、尾久駅に停車し7時36分に発車しました。続いて、日暮里駅にも停車し7時41分に発車。終点の上野駅に7時49分に到着していました。かつては、尾久駅と日暮里駅は隣の駅であり、両駅間を乗り換えなしで移動する事ができたのです。

現在の日暮里駅には、1番線から12番線までホームがあります。しかし、5・6・7・8番線がありません。実は、これらが宇都宮線・高崎線に割り当てられていたのですが、現在では撤去されています。

そして、尾久駅と日暮里駅を隣の駅とする計算方法だけが残り、特例的な運賃が適用されているのです。

【地域資料専門員 黒川徳男】





*** 北区の部屋・今月の展示 *** 「昭和 57 年浮間 一図書館員たちが残した記録写真」

- 展示期間 2月25日(土)～3月30日(木)
- 展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

昭和 57 年(1982)東北新幹線・埼京線建設の中で浮間の景観は変化して行きました。当時、浮間図書館に勤務していた図書館員たちは、その変化を目の当たりにしました。彼らは、カメラを持ちだし、変りゆく街並みを記録したのです。今回の展示では、当時の浮間の商店街や、農地が残る景色など、昭和の浮間の写真をご覧ください。



浮間 4 丁目交差点 浮間図書館撮影



*** 地域資料のおススメ本 *** 「北区の部屋」コレクション：「学校誌」



地域資料の中には非売品の本なども多く存在します。学校誌もそのうちのひとつで、本来なら児童・生徒や学校関係者のみに配られる記念誌をご厚意でご寄贈いただいております。

特に区立小・中学校では、10 年ごとに「創立周年記念誌」を発行されることが多いため、「北区の部屋」にはかなりの蔵書があります。古いものは 1952 年発行の「滝野川第三小学校・創立三十五周年記念誌」、次が 1953 年発行の「荒川小学校・創立八十周年記念誌」です。約 70 年以前からの資料が揃っていることになります。

ちなみに、この「創立周年記念誌」は職場体

験で来館する中学生たちに大人気です。「北区の部屋」で地域資料について説明したあと、自由見学の時間になると、大半の生徒が自身や友だちの母校の記念誌を取り出し、友達の写真を見つけて盛り上がっています。

皆さまは北区立小中学校の卒業生ですか？もしそうであれば、記念誌に懐かしい学生時代の思い出が写真となって残っているかもしれません。ぜひ、「北区の部屋」で探してみてください。



*** 北区の歴史、興味ありませんか *** 「北区の歴史を学ぶ会」のご案内



- 開催日時 毎月第 4 火曜日 午後 2 時～4 時
- 開催場所 中央図書館 3 階ホール／区民活動コーナー

北区図書館活動区民の会では、図書館と協働でさまざまな取り組みを行っています。そのうちのひとつ、地域資料部では、北区の地域資料を考える上で「まずは北区の歴史を学ぼう！」と、「北区の歴史を学ぶ会」を立ち上げました。

月に一度集まり、参加者自身が北区を題材に調べ上げた研究成果を発表したり、街歩きで区内の史蹟巡りや定点観測を行ったりと、北区をさまざまな切り口で取り上げ学んでいるのです。「北区の部屋」地域資料専門員も参加しているので、いろいろと興味深い話が聞けるかもしれません。

聞いているだけでも OK です。まずは一度、覗きに来てみませんか？ お待ちしています！！

※お問い合わせは中央図書館内、区民の会事務局（☎03-5993-1125）まで



北区の部屋だより

2023 年 4 月 第 164 号



刊行物登録番号 4-2-135

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 Tel03-5993-1125 令和 5 年 4 月発行

北 区
こぼれ話
第164回

一口に江戸時代と
いっても……



先だって北区で古文書を学習しているグループの方々と天保^{てんぽう}11 年（1840）の古文書を読んでいました。天保 11 年といえば、長らく將軍職にあった徳川家^{とくがわいえなり}齊から職を譲られた徳川家慶^{いえみつ}が 12 代將軍に就任して 3 年目の治世下で、今から 183 年前になります。学習会では同じ国の人間が、同じ日本語を用いて書いた文章でも 180 年経つと読むのが難しい、ちゃんと勉強しないと読めないねなどといつて笑いあっていたのですが、そのときふと江戸時代^{いそよ}の人は江戸時代の文章を読めたのか、そんな疑問が頭をよぎりました。これは識字率、すなわち日常生活の中で簡単な文章を理解し、読み書きができる人の割合といった問題ではなく、時の移り変わりのなかで「もう昔の字は読めない」ということはなかったのか、ということです。

そもそも一口に江戸時代といつても徳川家^{いえ}康^{やす}が征夷大將軍に任じられ幕府を開いたとする慶長^{けいちょう}8 年（1603）から 15 代將軍徳川家慶^{いえみつ}が大政奉還した慶応^{けいおう}3 年（1867）まで、260 年以上もの長期間にわたります。はっきりいって長いです。冒頭で今から 180 年前の古文書解説の話を書きましたが、例えば天保^{てんぽう}11 年を例にとれば、その 180 年前は 1660 年で万治^{まんじ}3 年になります。翌 1661 年からは寛文^{かんぶん}という時代になりますが、いずれにせよ 4 代將軍徳川家綱^{いえのすな}の治世^{ちせい}下です。すなわち、私たちにとって 12 代將軍の徳川家慶の治世下が遥

か昔であるように、天保年間の人々にとって 4 代將軍徳川家綱の治世下は、同じように遥か昔といえるでしょう。それこそ彼らにとっての徳川家康、そこまでいかなくとも 3 代將軍徳川家光ですら、私たちが徳川家慶をみる以上に年代が離れているのです。

このように記せば、同じ 180 年でも社会制度が変化している 180 年と、徳川幕府という同じ制度下にあった 180 年では意味合いが違うとの批判もできそうですが、それでも私たちが高度成長期やバブル経済期を遠い過去のように思い、その渦中^{うずな}にあった方々以外では当時の状況や実際の様子はもうよくわからない、そんな感覚を江戸時代の人々も同じ江戸時代で感じていたのではないかと考えるのです。

このことはすなわち、一口に江戸時代といつても実際には各時代で様々な状況は変化しており、そうしたなかで社会を、そして地域を理解する必要があるということにも通じてくるのですが、そんな難しい話はさておき結論として一言、やっぱり江戸時代って長いですね。 【地域資料専門員 保垣孝幸】



北区の部屋 今月の展示

や だ がわ 谷田川を歩く

■展示期間：4月1日(土)～4月26日(水)

■展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

かつて北区西ヶ原と豊島区駒込との区境を谷田川という川が流れていました。昭和の初め頃から暗渠化が進められ、終戦前にはすっかり埋められてしまいました。今回の展示では、かつての谷田川流路を散策します。



「大正時代の谷田川」
滝野川第七小学校 40 周年記念誌
『わたしたちの滝七』より

公開歴史講座を 開催しました

江戸城上納物と北郊の村々 —近世北区域のもう一つの特徴—

■日時：3月11日(土) 14～16時 ■会場：中央図書館 3 階ホール

■講師：近世史研究家・保垣孝幸 地域資料専門員

江戸周辺の村々では、農村で採取できる様々な物資を、江戸城に上納していました。「領」という単位を基準に、触次(お触れを回す者)からのお触れにより、江戸城で必要とされる、あらゆるものを上納していました。

平柳領(浮間村)では、鷹や小鳥の餌となる「けら」、岩淵領では、杉の葉、また王子周辺では観賞用の蛍などが納められたことが確

認されています。豊島郡には寺社の領地がたくさんあり、その村々は幕府からの賦課を免除されていました。そのしわ寄せを受けた周囲の村々では、生活が苦しく、自分たちも、上納物の免除をして欲しいと願い出たことが資料より読み取れました。

今回の講座では、江戸城に様々なものが上納されていたことを知ることができました。受講者のみなさんは、幅広い年齢層の方々が受講され、熱心にメモを取られ、終了後は、講師に質問されている方もいて、北区の歴史への関心の高さが伺えました。参加者全員が、熱心に耳を傾けていたのが印象的でした。



講師：保垣孝幸 地域資料専門員

古文書講座 のご案内

古文書入門講座「いろはの『い』」

北区の旧家に残されていた江戸時代の古文書をテキストに、くずし字の解読方法や地域の歴史について学習します。

【対象】区内在住・在勤・在学、18 歳以上の方

【日時】令和 5 年 5 月 12 日～6 月 16 日

毎週金曜日・全 6 回・午後 2 時～4 時

【申込】往復はがきの往信用裏面に講座名、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、

返信用表面に申込者の住所、氏名を記載し下記まで。

4 月 19 日(水)(必着)。

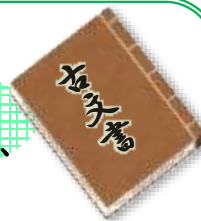
【送付先】〒114-0033 北区十条台 1-2-5 北区立中央図書館図書係

【問合先】TEL:03-5993-1125(図書係・地域資料担当)

【定員】20 名(抽選・初めての方優先)

【場所】中央図書館 3 階ホール

【講師】保垣孝幸 地域資料専門員



北区の部屋だより

2023年5月 第165号

刊行物登録番号 4-2-135

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和5年5月発行

北 区
こぼれ話
第165回

もうひとつの国鉄引込線 —あじさい荘の土地にあった貨車工場—

北区における国鉄時代の引込線と言えば、鉄道雑誌などでは、主につぎの各線が取り上げられています。①赤羽八幡神社の下と、赤羽台や西が丘などの軍事施設を結んでいた軍用貨物線。今では、赤羽緑道公園などとして利用されています。②志茂の国鉄火力発電所(現在の北清掃工場)への石炭輸送に使用されていた線路。今は道路として利用されています。③王子駅付近から日産化学の工場(現在の豊島五丁目団地)などに引き込まれていた須賀線。今の紀州通りなどです。④近年まで日本製紙物流に紙を輸送していた北王子線。現在も廃線跡の一部を見ることができます。

しかし、あまり知られていない引込線もあったようです。「北区の部屋」にご協力いただいている方から、少年時代の思い出話をお聞きしていた時のことです。話題は、現在の清水坂公園にあった国鉄官舎やその周辺で見た景色のことへ及んでいきました。そして、赤羽線と東北線が分かれるあたりに引込線があったと話し始めたのです。その線路周辺で、スクラップになった複数の貨車を見たとの

ことでした。

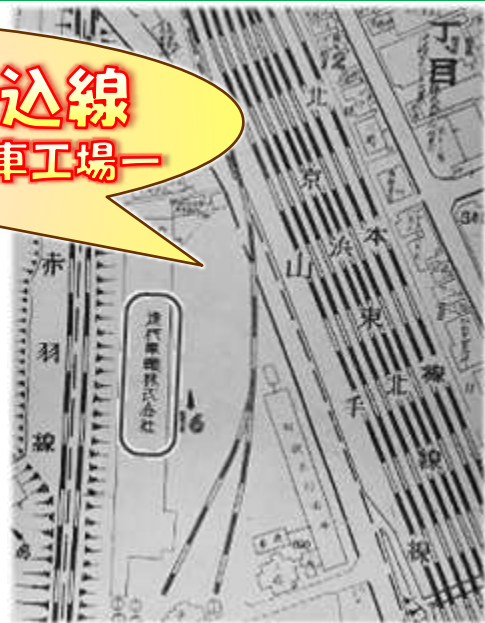
昭和44年(1969)の地図で確認してみると、それは確かにありました。

引込線のあたりには、国鉄

赤羽倉庫とともに「造機車輜株式会社」と書かれた建物が描かれています。線路は、岩槻街道(日光御成道)を斜めに横切っているのです。付近にお住まいだった方々にはよく知られた線路だったでしょう。今で言えば、大型入浴施設跡地の東側から、特養ホーム「清水坂あじさい荘」の中へつながる位置です。国鉄分割民営化の翌年、昭和63年(1988)の住宅地図では、線路の記載はないものの「造機車輜(株)本社営業所」と書かれています。この会社は『赤羽工業名鑑』にも『北区商工名鑑』にも掲載されていません。そこで、造機車輜株式会社についてインターネットで調べてみると、国鉄用の貨車を製造していた企業の一つだったことが分かりました。この引込線は「造機車輜専用線」と呼ばれたようです。

北区の鉄道については、いろいろ調べてきたつもりだったのですが、まだまだ地元の方に教えられることが多いのです。【地域資料専門員 黒川徳男】

※著者注：地図中の路線名は、正しくは右から京浜東北線、東北本線、東北貨物線で、地図の表記は誤植と思われます。



『東京都全住宅案内地図帳 北区版』
昭和44年版 住宅協会地図部発行



引込線は、清水坂の北あたりで岩槻街道を斜めに横切っていた。 永田秀太郎氏撮影

北区の部屋・今月の展示 「廃線鉄道情景 ー写真と地図で見る引込線と軍用軌道ー」

- 展示期間 4月28日(金)～5月24日(水)
■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

かつて、北区内には様々な引込線や、陸軍専用の軽便軌道がありました。それらは様々な事情により廃線となり、道路など別の用途に使用されています。その中から、次の6線を選び、当時の写真や地図を用いてパネル展示いたします。区民の皆様が撮影した懐かしい鉄道風景も交えた展示です。ぜひ、お楽しみください。

- ①赤羽軍用貨物引込線 ②赤羽火力発電所専用線 ③造機車輦専用線 ④須賀線 ⑤北王子線 ⑥陸軍造兵廠軽便線



赤羽軍用貨物引込線 昭和30年代
渡辺肇氏撮影

中央図書館刊行物・新刊本のご案内 「北区の歴史はじめての一步 浮間地区編 改訂版」 執筆 黒川徳男・保垣孝幸／編集・発行 北区立中央図書館



資料番号：B-13270674

北区立中央図書館では、北区について初めて学ぶ方に向け、子どもでも読みやすくわかりやすい地域史の入門書『北区の歴史 はじめての一步』シリーズ(全7地区)を刊行しています。

その初版発行から10年以上の歳月が経過し、まちの様子もずいぶん変わりました。本編の記載内容にも一部変化が生じたため、令和2年から改訂版の作成を開始しました。今回の「浮間地区編」は、既刊の「①赤羽東、②王子東、③滝野川東地区編」改訂版に続く第4弾です。残る3地区編も順次改訂していく予定です。

これらの本は、区内全図書館で閲覧・貸し出ししているほか、下記の場所で販売もしています。

- ①中央・滝野川・赤羽図書館、②飛鳥山博物館、③北区役所本庁舎1F区政資料室、④区内一部書店
※お問い合わせは中央図書館図書係・地域資料担当(☎03-5993-1125)まで

地域資料・新着図書のご案内 「扉～第21回 北区内田康夫ミステリー文学賞受賞作品～」 編集 実業之日本社／協力 内田康夫財団／発行 北区シティプロモーション推進担当課

北区では、毎年3月に「北区内田康夫ミステリー文学賞」の授賞式及び各賞の発表と表彰が盛大に行われます。これは、北区アンバサダーとして活動された作家の故内田康夫氏のご協力のもと、平成14年に創設した北区独自の文学賞で、今年も3月25日に第21回文学賞の授賞式が行われました。今回、応募総数176作品の中から大賞に選ばれたのは、埼玉県在住の諸星額さんの『沈黙のコンチエルト』でした。「扉」には、大賞作品のほか、特別賞受賞2作品も掲載されています。こちらは区内全図書館で閲覧・貸し出ししているほか、北区役所本庁舎1F区政資料室と3Fシティプロモーション推進担当課で無償配布もしています。



文学賞 オリジナル
キャラクター『テールズ』



資料番号：B-13276288